

●2013 年度第 1 四半期決算説明会（IR）質疑応答議事録

日時 : 2013 年 7 月 30 日（火）17:30~18:20
場所 : 富士通汐留本社 24 階大会議室
説明者 : 取締役執行役員専務 CFO 加藤 和彦

質問者 A

Q. 13 年度第 1 四半期の PC・携帯の出荷台数について教えてください。

A. 具体的な出荷台数の開示は控えさせていただきます。1Q の携帯の売上は前年比 30%減ですが、昨年の四半期平均の売上レベルからは半減となっており、台数も同様に半減のイメージでした。これは NTT ドコモ販売戦略のツートップに入れなかったことが響きました。

Q. 1Q は携帯電話事業の落ち込みが大きかったということですが、今後は事業を強化するのか縮小するのか、方向性について教えてください。

A. 携帯電話事業から逃げるつもりはありません。市場はまだ伸びると考えています。当社は昨年、品質問題で失敗しました。しかし昨年度の後半に出した機種以降は品質レベルが上がり、足元では修理にかかる台数比率が少なくなっています。ようやく胸を張れる品質になりました。今後も品質向上を推し進めていきます。更に今後、企業向け端末としての重要性が増し、ビジネスの裾野が大きく広がっています。フラッグシップモデルで年間 100 万台レベルを維持できるならば、先端テクノロジーを追求しながら、今後もビジネスモデルとして成り立たせることができます。ビジネス的には、更に他機種を含め月産約 30 万台レベルを確保できれば、利益を出すことができます。過去のような数百億円という高い営業利益は望めないかもしれませんが、第 1 四半期のような大きな赤字が出ることはないと考えています。月産約 30 万台で採算がとれる体質を作ることができれば、十分事業を続けることができます。

Q. LSI 事業の構造改革が発表になって半年が経過しました。その後の進捗について教えてください。

A. 構造改革の進捗状況ですが、ポイントは 3 つあります。マイコン・アナログ事業の譲渡はスパンションとの間で合意出来ており、8 月に実行される予定です。システム LSI 事業の統合新会社設立については、パナソニックとの話し合いが日本政策投資銀行も入り進んでいます。もう少しお時間をいただきたく存じます。三重工場 300mm ラインの TSMC を含む新ファウンドリ企業への移管についても、もう少しで話が決着するだろうと見えています。

Q. LSI の事業構造改革は年度内に決着すると見てよいのでしょうか。

A. 9 月末をターゲットにしています。早めに決着したいと考えています。

Q. NTT ドコモが iPhone の取扱いを始めても、利益を確保することができますか。

A. テクノロジーの変化に耐えられるような体質になれば、十分勝ち残れると思います。市

場の広がりを見ると、今から様々な準備をしておくべきだと考えています。コンシューマ向けでボリュームを追うビジネスがある一方で、企業向けにも端末とサービスを組み合わせることで安定したビジネスに成り得ると考えています

質問者B

Q. 携帯電話は第1四半期に開発コストと品質対策コストが大きくかかったとのことでしたが、第2四半期以降これらのコストはどのように推移するのでしょうか。

A. 機種は絞り込んでいますが、売上水準が非常に低い中で、開発コスト負担は重くなっています。今後も開発費の水準は大きくは変わりません。一方、品質対策コストについては、昨年出したモデルの品質が良くなかったことから増加しました。終息に向かってはいますが、第2四半期までは続くと思われます。今年夏に出したモデルは、かなり品質が良くなっています。下期になると、品質コストの負担はかなり軽減されると見えています。

Q. SIの受注が好調とのことでしたが、業種別に詳しく教えてください。また、下期にかけての見通しも併せて教えてください。

A. 今の受注ベースだと、産業、流通、金融、公共系すべて増加傾向にあります。また、今後3年間は大型商談が入ってくる見込みなので、SIビジネスは高水準が継続すると考えられます。

Q. SIで不採算案件があるとのことでしたが、1Qの影響額を教えてください。また、確認出来ている範囲で、下期にどれくらいのリスクを見えていますか。

A. SI不採算案件は国内で出ています。内容は長期の開発プロジェクトですが、作りこみの段階では判らず、テスト段階で不具合が判ったものです。数億円のレベルではなく、二桁億円規模のロスが出てしまいました。今、大型プロジェクトを対象に、改めてプロジェクトのチェックを指示しました。今現在は、新たに大きな問題はないと認識しております。

Q. 不採算プロジェクトは第2四半期も前年比減益要因になりますか。

A. なりません。

質問者C

Q. 営業外損益は、期初計画ではマイナスだったと思いますが、第1四半期ではプラスでした。計画が保守的だったのでしょうか？今後の見直しについても教えてください。また、特別損失についても、第1四半期には発生していませんが、今後どのタイミングで発生する予定でしょうか。半導体など、事業の進捗を踏まえ、追加になる可能性があるかを確認させてください。

A. 営業外損益は、金融収支、持分法による投資損益、為替差損益などすべてアップサイドに上振れました。そういう意味では、保守的に見ていたといえるかもしれませんが。為替は、その時にならないと分からないというところはありますが、今回はプラスに働

いたということです。持分法による投資損益は、富士通ゼネラルなどで為替影響により計画を上回りました。第2四半期以降も、為替が1ドル93円以上で推移すれば、予定より悪化することはないと思います。特別損失は、年初計画で300億円を見込んでいますが、交渉の決着がつけば発生すると見ています。9月末に決着すれば、第3四半期に計上することになります。300億円から額が増えるかどうかということについては、今現在、その予定はありません。

質問者D

Q. 第1四半期の携帯電話出荷台数は下振れしたと思いますが、年間の出荷台数は520万台を維持するということは、下期は当初より台数増を想定しているのでしょうか。下期にはNTTドコモのツートップに選ばれるという前提で考えているのでしょうか。もしもこの前提が崩れたときには挽回策はあるのでしょうか。

A. 秋冬モデルでかなり台数を増やす計画となっています。その前提が崩れた時には、残念ながら赤字になるでしょう。しかし、開発を止めたらこのビジネスは成り立たなくなります。開発を続けながら、年間520万台を売る努力をしています。全滅という状況は想定していません。前向きに強気で考えています。

Q. SIの受注は過去10年で最高だとコメントがありました。不採算プロジェクトがない前提で考えるSIビジネスの損益は、更に上振れしないのでしょうか？

A. SIに関しては、13年度から15年度は高い仕事量になると思います。13年度不採算がなければ、SIを含めたソリューションビジネスは上振れ余地はあると思います。海外も含めてサービスビジネスの状況は悪くはないと考えています。

質問者E

Q. 第1四半期の携帯電話事業の赤字が100億円強出たということですが、ソフトウェアの品質問題への対応費用と、台数減による影響の内訳を教えてください。また、それに関連して、費用削減を進められていると思いますが、損益分岐台数である月産約30万台でのブレークイーブンを、開発費削減だけでまかなえるか、それとも製造コスト削減も必要か、教えてください。

A. 携帯電話は返品率が他社と比較しても高く、昨年後半から対応費用についても重いベースが継続しています。第1四半期も同様でした。金額の詳細は控えたいと思いますが、品質問題への対応費用は、3桁の赤字の中でもかなりの部分を占めています。開発費も高い水準が続いています。こうした中で、販売台数が伸びず非常に厳しい状況にあったということです。携帯事業に携わっている従業員はグループ全体で2,000名程度です。ものづくりの部分では、基本的に既に変動費化が出来ていると思っています。現在、ロボット導入や3Dプリンタの活用を進めています。もう一段ものづくりのモデルがレベルアップすれば、更なるコストダウンが可能になると思っています。更に、開発の効率を上げ、品質を保てる状況下で、機種数を絞れば、開発コストも軽減できると考えています。

- Q. 半導体事業の構造改革においては、非連結化が最終ターゲットだと理解していますが、TSMC との交渉の結果、富士通が三重工場を持ち続ける可能性はあるのでしょうか。こういった条件で交渉を進めているか、教えてください。
- A. 微細化は進みつつあります。既に、富士通は 40nm 以降の製造は TSMC に委託しており、今後自分で持ち続けるという可能性は考えていません。
- Q. サービスセグメントについて、前年比で 8%増収した割に、利益の改善が 22 億円と小さいように思います。特に海外のインフラサービスは為替の影響で伸びた部分が大きく、利益の伸びはなかったのでしょうか。海外の収益性の改善の状況について、費用の増減を含め、教えてください。
- A. 第 1 四半期のサービスセグメントの利益が伸びなかった要因として、一つは国内での不採算案件がありました。2 つ目は、海外、特に英国の年金負担があり、実額で見ると大幅な増加になっているということです。不採算や年金の影響などの特殊要因を外すとかなり高い利益率となり、前年比で数パーセントの改善となります。

以 上